

第8回戦術委員会確認事項

2015年4月22日

全日本金属産業労働組合協議会

(金属労協/JCM)

金属労協は、本日10時より第8回戦術委員会を開催し、現時点までに引き出した回答を集約するとともに、JC共闘の今後の進め方を確認した。

1. 中堅・中小登録組合のうち、これまでに回答を引き出した140組合全てが賃金構造維持分を確保した。賃上げ獲得組合は、126組合(回答組合の90.0%)となり、昨年同時期の獲得組合の比率(同80.5%)を上回った。また、平均獲得額は1,883円となり、昨年同時期の1,272円を611円上回った。

一時金は、平均獲得月数が年間4.87カ月となり、昨年同時期を上回っている。昨年と比較できる121組合のうち、62組合(51.2%)が昨年実績を上回った。また、最低獲得水準の「年間4カ月分以上」を下回る組合は9組合となり、昨年同時期の14組合より減少した。

2. 金属労協全体では、3,284組合のうち、2,614組合が要求を提出し、1,777組合が回答を引き出している。

要求提出組合のうち、2,159組合(82.6%)が賃上げを要求した。回答を引き出した1,777組合のうち1,512組合(85.1%)が賃金構造維持分を確保した。このうち賃上げを獲得した組合は1,181組合(回答組合の66.5%)となり、昨年同時期の1,151組合(同60.8%)を上回った。月例賃金を引き上げた組合の平均引き上げ額は1,804円となり、昨年同時期の1,332円を472円上回っている。

一時金は、平均獲得月数が年間4.49カ月となり、昨年同時期と同程度の水準となっている。昨年と比較できる1,249組合のうち、651組合(52.1%)が昨年実績を上回った。

3. 各組合の懸命な努力によって、賃上げを獲得する組合が拡大するとともに、昨年を上回る賃上げ額を獲得する傾向がJC共闘の大勢となっている。われわれは、金属産業全体の格差改善と底上げを図るため、今後回答を引き出す組合に、こうした流れを波及させていく。また、未組織労働者・非正規労働者の賃金・処遇の改善をめざし、非正規労働者に関する取り組みや、企業内最低賃金協定の締結拡大と水準の引き上げに取り組んでいく。このため、引き続き共闘体制を維持しつつ、各組合は、産別指導の下、精力的に交渉を展開し、早期決着に向けて一層の努力を図る。

4. 第9回戦術委員会は、5月27日(水)9時30分より開催する。

以上